



ウイルス対策万全ですか？

世間ではインフルエンザが流行する時期になりました。皆様も感染予防に努めていることと思います。コンピュータの世界にも“ウイルス”が存在することは皆様ご存知と思います。では、コンピュータウイルスの予防対策は万全でしょうか？

コンピュータウイルス、今昔物語

コンピュータウイルス(以下、ウイルス)が登場したのは1980年代と言われています。初期のウイルスはフロッピーディスクなどからパソコンに侵入し、パソコンの画面上に何らかのメッセージを表示したりするような軽微なものでした。実行すると画面上で火花が上がったりするものもありました。それがいつしかデータやパソコンを破壊するような悪意のあるものが登場しました。

そしてインターネットが普及するのに伴い、感染経路もフロッピーディスク等からネットワーク経由へと変わっていききました。ウイルスの活動内容も破壊活動などから、迷惑メールを大量に送信するものや、個人情報盗み出すものなどへと変わってきました。

また、Winnyなどのファイル共有ソフトを通じて感染した場合、大量の情報漏えいを引き起こすなど深刻な事態(事件)に陥ることも多くなりました。

昨年(2008年)後半の動向としては、USBメモリを介して感染するウイルスが急激な増加を見せました。知人のUSBメモリを借りて接続したところウイルスに感染してしまったといったケースです。これは過去のフロッピーディスク経由型感染のUSBメモリ版と言ったところでしょうか。

ウイルス対策ソフト、有効期限は大丈夫？

ウイルスに感染しないためにウイルス対策ソフトを導入するのは基本中の基本です。感染を未然に防ぎ、ウイルスを駆除してくれます。ウイルスは日々、新種・亜種が発生するため、ウイルスを発見するための検出用パターンファイルの更新が重要となります。ウイルス対策ソフトの使用有効期限が切れてパターンファイルが更新されないままパソコンを使用するのは非常に危険です。自分が困るだけでなく他人にも迷惑をかけることとなります。注意しましょう！

不正アクセス対策もお忘れなく

ウイルス対策ソフトによるウイルスの感染予防以外にも注意しなければいけない事に、不正アクセス対策があります。インターネットを経由した外部からの不正アクセスによる情報漏えいを防ぐためにはファイアウォールと呼ばれるソフトまたはハードが必要です。Windows XP SP2には標準で「Windows ファイアウォール」が導入されており、これを有効にすることで簡易的な不正アクセス対策を施すことができます。

また、ルータと呼ばれるネットワーク機器を使用しローカルネットワーク(LAN)を組んでいるような場合も、ルータが簡易的なファイアウォール機能を果たしますので、必ずしもファイアウォールソフト(またはハード)が必要となるわけではありません。

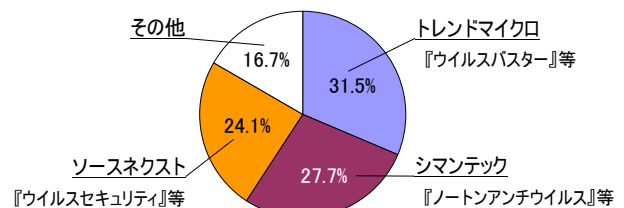
ただし、ノートパソコンを外へ持ち出してFreeSpot等の公衆無線LANや外出先のLANを借りるなどしてインターネットを利用するようなことがある場合は、当該パソコンにファイアウォールソフトを導入することをおすすめします。

セキュリティソフトは三国時代

日本のセキュリティソフト業界は3つのメーカーが大きくシェアを分けています。(※図1参照)

各ソフトとも機能的にそれほど大きな差はありませんので、価格や操作性、過去の実績などを参考に選択してみてください。

また「無料」を謳った製品も多数ありますが、画面に広告が表示されたり、ソフト自体の動作が不安定だったりする場合があります。業務で使用するパソコンへの導入はおすすめできません。



＜図1、セキュリティソフト販売本数 2008年度 BCN 調べ＞

パソコンを多数保有している場合、導入費用だけでも大変です。ウイルス対策ソフトには企業向けのライセンス版もございます。ウイルス対策でお悩みの方は一度、エーアイティ研究所までご相談ください！

編集後記

まだWindows98全盛だった頃、友人に頼まれてウイルス駆除をしたことがあります。依頼された時は状況がかなり悪く、パソコン内の数千のシステムファイルがウイルスに感染していました。専用の駆除ソフトを使って一昼夜つきっきりの駆除作業となってしまう大変だった覚えがあります。最近は情報を盗み出したりする暴露タイプが多くなりました。自分は大丈夫と過信せずに、万全のウイルス対策/セキュリティ対策を行ってください。(本田)